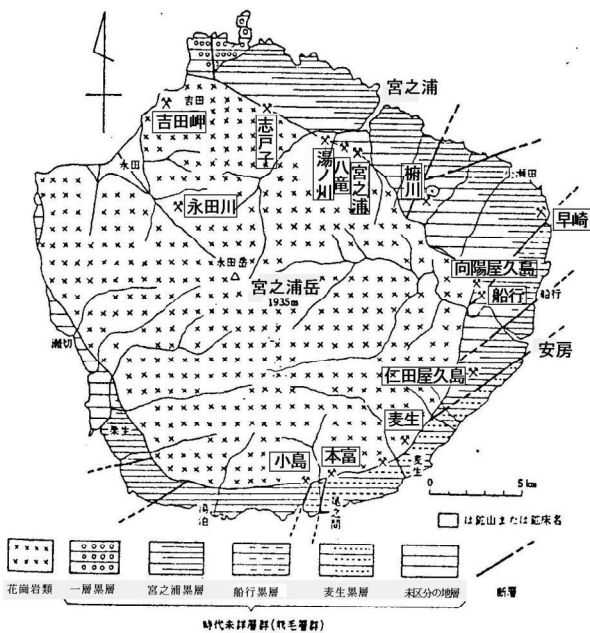


鹿児島の地質⑭ 屋久島のタングステン鉱山跡

地質担当 鈴木 敏之

屋久島のタングステン（重石）は戦時中に砲弾や電球のフィラメント等に使用されるなど、わが国の鉄マンガン重石資源としてかなり重要な地位を占めていました。採掘の最盛期は昭和18年で、屋久島における精鉱量総計94.4トンと記録されています。いずれの鉱床も花こう岩の岩体周縁部にあり境界近くの花こう岩または変成作用を受けた堆積岩（ホルンフェルス）を母岩としています。（下図参照）



第1図 屋久島の地質およびタングステン鉱床分布略図
（地質は橋本勇による）

鹿児島県下有望鉱床地域昭和48年度調査報告より（鹿児島県地下資源開発促進協会（1969））

現在、これらのタングステン鉱床は、すべて閉山しており、すでに荒れ果ててその跡がはっきりしないものがほとんどです。

これまでに屋久島在住の中川正二郎氏の協力を得て、鉱山跡の所在地や現在の坑道などの様子を記録に残しておくために調査を行いました。今回は、過去の文献や地元での聞き取り調査等をもとに現地を確認ができた2つの鉱山を紹介します。

○早崎鉱山（屋久島町小瀬田）

【所在地および沿革】

屋久島町早崎、落川河口の北約800mの海岸部にあります。明治末に発見され、露天掘りおよび坑道掘りが行われ、昭和13年以来、

仁田鉱山（株）により稼行されました。昭和16年選鉱設備を完成し、1日あたり精鉱2kgをあげましたが、同20年空襲激化のため休山し、その後、閉山しました。

【現在の状況】

現地までは比較的容易にアクセスすることができます。周辺に選鉱後捨てられた鉱石（砂岩）の中の石英脈にひじき状のタングステン、電気石、水晶などが認められました。坑道は石英脈を追って掘られていますが、その後の落盤のために埋められている状況でした。



写真1 早崎鉱山跡



写真2 タングステン鉱

○仁田屋久島鉱山（屋久島町平野）

【所在地および沿革】

屋久島町安房の南西の丘陵地にあり、明治44年に発見された鉱山です。休山、鉱業権の移行などを経て昭和16年から機械化による本格的な操業をはじめ、タングステン鉱山としてわが国第2位の生産をあげました。昭和20年の終戦により一時休山し、昭和25年頃から需要増加に伴い採掘を開始しました。その後休山、操業再開を繰り返し、昭和33年不況のために休山し、閉山しました。

【現在の状況】

今回の調査では、平野付近の丘陵地に5つの坑道と発電用の水路跡および関連の施設跡を確認することができました。坑道の1つには途中まで軌道が敷かれており当時の操業当時の様子を想像することができました。

（注）調査にあたっては所有者の許可をもらっています。



写真3 坑道跡



写真4 発電用水路跡